令和２年度　関係人口創出・拡大のための中間支援モデル構築に関する調査・分析業務
業務実施報告書

【貴団体概要】

団体名	株式会社日本能率協会総合研究所
事業名	山口・田舎暮らしクエスト 　～新たな暮らしを探究するクエスト参加者を募集します～

1　事業概要・主な成果

1.1　事業概要

(1) 山口・田舎暮らしクエストとは

・近年、新型コロナの影響もあり、今後、ますます場所や時間に縛られない働き方・暮らし方への関心が高まっている中、自ら働き方や暮らし方を選択しながら豊かな生活につなげていくことが、より求められる時代になるのではないかと考えています。
・本事業では、そのような新たな選択を試すフィールドとして、山口県山口市、周防大島町の２つの地域を舞台に単なる観光や遊びではない、参加者自身の暮らしを見つめなおす「クエスト」を通して新たな生き方の探求につながるとともに、2 つの地域にとって「仲間が増えること」を期待し、事業に取り組みました。

(2) 大切にしたこと

〇田舎のリアルな体験を大切にします
・参加者＝お客様ではないと考えています。仲間になっていただくということは、田舎の良いところも悪いところもフラットに知ってもらい、その上で、どのような関わり方ができるのか共に考えたいと思っています。そのため、リアルな田舎の暮らしを楽しんでもらうことを大切にしました。

〇100 人の「いいね！」よりも 1 人の「アクション！」を大切にします
・本事業では、興味を持ってもらえる人が 100 人生まれるより、具体的なアクションを起こしてくれる 1 人が生まれることを大切にします。参加者と真剣に向き合い、ともに田舎暮らしのあり方を考えていくプロセスを通して、具体的なアクションにつなげたいと考えました。

1.2　主な成果

(1) 事業の目標・達成状況

・今回の事業で重視していた「仲間づくり」に関して、クエストに参加した 2 名は、それぞれ独自の関わり方を模索し始めており、地域の顔見知りも一気に増え、新しい取組の機運が生まれています。

目標	達成状況
取組終了後も地域に関わり続けたい参加者：4 名以上	2 名 ・周防大島、阿東地福それぞれの地域において、段階的に二地域居住的な関り方を開始している
関係人口（仲間）の確約人数：2 名以上	2 名 ・既に、各地域で、移住後の暮らしを見据えたアクションを起こしている
取組終了後、地域づくりに参画したいと考える地元住民：10 名以上	10 名以上 ・各地域において、参加者と地域住民のつながりが生まれたことは成果として大きい

(2) その他の成果

〇顔が見える関係をつくる
・参加者が継続的に地域につながりを持てるということは、その地域に会いたいと思える人がいることが重要な要素の 1 つと考え、参加者のロールモデルとなり得る移住者との交流や仕事の手伝いを通じた関係づくり等により、参加者にとっての多くの顔見知りができました。

〇地域のリアルを体験する
・観光地をまわらない、極寒の地域資源も乏しい真冬に訪れる、地域で暮らす移住者や住民の率直な話を聞くことができる、地域の仕事をしっかり体験する等、通常の移住体験ツアーではあまり組み込ま

れない要素を入れることで、「地域への関わり」を重視している参加者の満足度につながりました。

2　モデル事業実施地域の概要と課題

2.1　事業実施地域の概要・課題

（1）山口市阿東地福地域の概要・課題

・山口市阿東地福地域は高齢化が進み、独居又は夫婦のみの高齢者世帯が増加する中、平成 22 年 2 月には地域内唯一のスーパーが撤退するなど、高齢者を中心に買い物環境への不安が高まり、地福地域で安心して暮らし続けることができる機能の確保が地域課題として浮き彫りになりました。

・そこで、地福地域づくり協議会を中心に地域住民主体の課題解決への取組がスタートし、平成 23 年 12 月には地域の将来構想「地福ほほえみの郷構想」による、地域拠点を核とした地域課題解決の仕組みづくりを推進するため「地福ほほえみの郷運営協議会」を設立しました。

・その後、「NPO 法人ほほえみの郷トイトイ」を設立、中心となって、新たなスーパーの開設、移動販売車の立ち上げ・充実を図るとともに、地域女性による惣菜加工グループの立ち上げ、産直野菜の出荷の仕組みづくり等にも取り組んできました。また、地域食堂の開設による子供と高齢者の交流や農業体験の実施など、地域住民が主体的に関わることができる地域の仕組みづくりにも取り組んでいます。

・今後さらに人口減少高齢化が進む中で、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることのできる地域の仕組みづくりが益々重要となっています。これまで、地域課題を丁寧に拾い上げながら、地域内に新たなビジネスを生み出し、課題解決を実践してきましたが、将来的な持続に向けて、収益性を高め雇用を確保しながら、地域の担い手育成を進めていくことが危急の課題となっています。ただ、地域は少子高齢化が進んでおり、担い手確保が困難な状況にあります。また、高齢者の移動手段が確保できない、農業後継者がいない等、多くの地域課題も山積しています。

地域の拠点となっているスーパー

移動販売の様子

総菜加工の様子

＜NPO 法人ほほえみの郷トイトイウェブサイト＞

http://jifuku-toitoi.com/

＜NPO 法人ほほえみの郷トイトイの活動概要＞

http://jifuku-toitoi.com/projects/

（2）周防大島町の概要・課題

・周防大島町は、山口県東南部に位置し、淡路島、小豆島に次いで3 番目の面積（138.17 ㎢）を有する瀬戸内海に浮かぶ島です。島と本土は大島大橋によって連結しています。本島である周防大島を中心に 5 つの有人島と 25 の無人島からなる周防大島諸島全体で周防大島町を形成しています。

・地勢は全般的に山岳起伏の斜地で 600m 級の山々が連なり、海岸部に狭隘な丘陵地が広がる程度で、大半を山地が占めており、年間平均気温 15.5℃と比較的温暖な、青く澄みわたる瀬戸内の海と四季の彩り豊かな美しい自然を有する町です。

・周防大島でも、少子高齢化が進み、第 1 次産業（みかん等）の担い手不足や高齢者の安心・安全な暮らしをどう守っていくかが大きな課題となっています。

・そのような中、周防大島での暮らしを考える都市部の人たちの移住促進に取り組む「周防大島町移住促進協議会」が発足、島で暮らす高齢者が安心して生活するために、地域の担い手として移住者を受け入れる様々な取組（島への移住・就労に関する相談会、リアルな島の暮らし体験、島コン、ビジネスプランコンテスト等）を進めることで地域の活性化を進めています。

・移住促進に早くから取り組み始めており、10 年ほど前から移住者も年々増加し、島で起業し活躍されている方も増えています。

＜周防大島町定住促進協議会ウェブサイト＞

http://teiju-suo-oshima.com/

＜周防大島町への UI ターン者＞

http://teiju-suo-oshima.com/ui-turn/

＜周防大島町定住促進協議会オリジナルムービー＞

http://teiju-suo-oshima.com/movie/

（3）共通する課題認識

・これら 2 つの地域では、それぞれ核となる組織が中心となって、地域づくりに取り組んできており、一定の関係人口の受入の素地や体制が形成されています。

・ただ、これらの地域に共通している課題は、地域の安心できる魅力ある暮らしを続けていくために、地域づくりの仲間となって共に歩んでくれる人材がまだまだ足りないことであり、より良い地域づくりの仕組みを構築していくことです。

・新型コロナウイルスによって、これまでの働き方や暮らし方が大きく変化している中で、地方への関心や関わりが高まりつつあり、その関わり方にも多様性が出てきています。このような機会もチャンスと捉え、様々な形で地域づくりに協力してくれる**「仲間づくり」**につなげたいと考えています。

2.2　関係人口創出・拡大に関わる取組みのビジョン・テーマ設定

・2 つの地域に共有するテーマは、**「それぞれの地域の良さを感じ、地域の暮らしに共感して、地域づくりに関わってくれる仲間をつくる」**きっかけとすることです。そのような仲間が増えることで、地域の様々な課題解決につながったり、新しい価値が生まれたりする自律的な地域となっていくことが目指すべき方向性（ビジョン）だと捉えています。

・新型コロナの影響もあり、都心で暮らす人たちの中で高まっている様々なニーズに対して（趣味を実践したい、環境の良い地方で働きたい、ビジネスで関わりたい、山や海の近くで子育てしたい、農業や漁業をやりたい、兼業・副業で地方に関わりたい、地域づくりに関わりたい、多拠点居住したい、移住したい等）、単なる観光や遊びではない田舎への多様な関わり方を実践体験（クエスト）として用意し、参加者それぞれの考えや状況に合わせて、地域への関わり方を、ともに考えていきます。

※クエスト…本取組では、田舎暮らしの体験や実践を通じて自身の今後の新たな生き方の探求につながることを指します。

3　モデル事業の取組内容

3.1　取組みの全体像　・スキーム

（1）取組の方針

方針１　多様な体験（クエスト）の機会をつくります

・仲間づくりに向けて、多様な体験（クエスト）の機会をつくります。具体的には、①オンライン説明会、②田舎の仕事体験、③田舎の暮らし体験の３つです。中山間地域と沿岸地域それぞれの田舎で、地域住民との交流もあり、地域の美味しい食材もあり、田舎の大変さもありの中で、様々な気づき・学びにつながる体験を用意します。

方針２　リアルな体験を大切にします

・参加者＝お客様ではないと考えます。仲間になっていただくということは、田舎の良いところも悪いところもフラットに知ってもらい、その上で、どのような関わり方ができるのか共に考えたいと思っています。そのため、お客様としてのおもてなしではなく、リアルな田舎の暮らしを楽しんでもらうことを大切にします。

方針３　100人の「いいね」よりも1人の「アクション」を大切にします

・本取組では、興味を持ってもらえる人を 100 人つくるより、具体的なアクションを起こしてくれる 1 人をつくることを大切にします。参加者と真剣に向き合い、ともに田舎暮らしのあり方を考えていくプロセスを通して、アクションにつなげたいと考えています。

方針４　ソーシャルディスタンスに配慮します

・体験プログラムの実施では、基本的には少人数＆小規模開催を基本とし、ソーシャルディスタンスに配慮します。また、対面での実施も困難な状況となった場合には、オンラインを活用した現地視察や意見交換の機会を設ける等、柔軟な対応に取り組みます。

方針５　都市と地方の新しいカタチづくりにチャレンジします

・新型コロナの経験から、今後はオンラインで田舎に関わるといったことも当たり前になると考えます。ただ、関係人口の創出・拡大の取組において、基本となるのは人と人のつながりです。本取組を通して、リアルとオンラインのそれぞれの場を上手く使い分けながら、どこにいても何らかの方法で地域とつながることができるような仕組みができたらと考えています。

（2）取組のスキーム

①　取組のターゲット

・近年、現役世代（特にミレニアル世代）の地方への関心（社会貢献や兼業・副業としての関わり）が高まっています。また、新型コロナの経験から、都心のビジネスパーソンの地方暮らしへの関心も高くなっています。

・一方、本取組を通して新たな仲間をつくっていくにあたり、これから経験を積んでいくための期間がある程度必要になることから、**都心で暮らす 20～40 代**をメインターゲットとして設定します。

② 取組概要

（ア）オンライン説明会＆個別面談

・参加者の理想と現実のギャップを事前にできる限り無くすこと、出来る限り地域への真剣な関りを考えている方に参加してもらうこと、の２点を目的として、地方での暮らしを真剣に考えている方を対象としたクエストの説明会を開催します（全３回）。

・その上で、クエストへの参加を希望する方と個別面談を行い、参加の動機やニーズ、実施可能な日程等を把握し、参加者のニーズに合わせてクエスト内容をカスタマイズします。

（イ）山クエスト

・山口市阿東地福地域をフィールドとして、リアルな田舎の暮らしを体感できるクエストを用意します。

【対象】田舎で働くことに興味がある人

【内容】

○**農家体験**（数日～1週間程度を想定）

・農家の普段の仕事を手伝ってもらう。

・汗を流して働き、人との触れ合いの中で、田舎で心豊かに暮らすイメージを持ってもらう。

○**小さな拠点体験**（数日～1週間程度を想定）

・地域の暮らしのインフラ的な役割を担うNPO法人のお仕事を体験（スーパーの運営、移動販売等）。

・人の役に立つことを実感しながら働くことができ、という地域の高齢者や子ども達との交流を通して、関係人口として地域に関わる方も数名参加し、田舎での暮らしや仕事、就農や起業等、リアルな声を伺います。

※将来的な雇用や期間就労、地域課題に関わる起業といった関わり方への発展を期待しています。

（ウ）海クエスト

・周防大島町をフィールドとして、リアルな田舎の暮らしを体感できるクエストを用意します。

【対象】海の近くで働くことに興味がある人、農業に興味がある人

【内容】

○**島での暮らし体験**（2～3日を想定）

・農家のお仕事のお手伝い、先輩農家との交流、町の制度や暮らしに関するお話、島の美味しいご飯や温泉等、島のリアルな暮らしを体験するツアーを開催します。

※将来的な就農、地域課題に関わる起業といった関わり方への発展を期待しています。

（エ）フォローアップ

・クエストを終えた参加者に対してアンケート調査を行うとともに、今後の二地域居住に向けたアクションについての意見交換や実現に向けたサポート等を行うことを目的として、オンラインでの意見交換（オンラインクエスト）を行います。なお、オンラインクエストの実施回数は、参加者の状況に応じて柔軟に対応します。

③ 取組プロセス

・取組全体の流れは以下の通りです。

① 広報・募集

・web・新聞・雑誌等の媒体に対しプレス資料を配信し、(PRtimes、@Press)特に若い層へ届くように告知します

・既存ネットワークを活用した告知も行います

・新規制作動画や既存動画をPRに活用します

※R2.9

②説明会＆面談

・各地域の人材とともに、オンラインによる事業説明会と意見交換を行います（ZOOM）

・その後、参加希望者と個別面談を行い、参加者を決定、日程調整します

※R2.10～11

③山＆海クエスト

・リアルな田舎の暮らしや仕事、地域住民との交流等のクエストを通じ、新たな暮らしへの気づき・学び、「仲間」づくりにつなげます

※R2.12～R3.2

④フォローアップ

・クエストを終えた感想、今後の展開に向けたアクションについてのニーズや疑問等について、参加者とオンラインで意見交換を行い、二地域居住の実践に向けたサポートを行います

※R2.12～R3.2

3.2　期待される効果・KPI

効果１　それぞれの地域づくりを担う人材育成につながります

・クエストを通じて、普段の旅行とは異なる地域への密な関わりが生まれることで、その地域や人に対する思いや愛着が育まれます。その結果、田舎で暮らす、田舎に関わり続ける、といった選択をする参加者が出てくることが期待されます。

＜KPI①＞クエスト説明＆面談会の参加者：100 名以上

＜KPI②＞クエスト参加者：20 名以上

＜KPI③＞取組終了後も地域に関わり続けたい参加者：4 名以上

＜KPI④＞関係人口（仲間）の確約人数：2 名以上

特に重視

効果２　地元側の意識の変化にもつながります

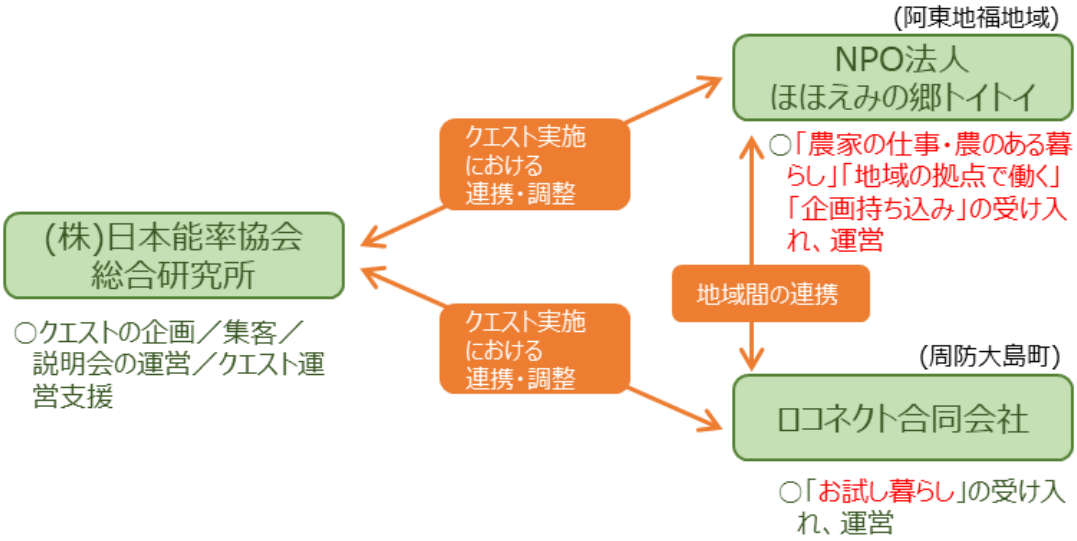
・本取組に様々な形で関わっていただく地元の住民にとっても、多くの刺激や気づきを得られる機会となり、本取組終了後もモチベーションをもって取り組んでくれる人が増えることが期待されます。これにより、受け入れ体制の安定化にもつながります。

＜KPI⑤＞取組終了後、地域づくりに参画したいと考える地元住民：10 名以上

4　事業実施に係る運営体制

4.1　事業実施体制

・都心と地域で役割分担を行い、相互に連携を図りながらクエストの企画・運営を行います。



4.2　事業実施団体及び関係機関の役割

・事業実施団体及び関係機関の役割は以下の通りです。

NO	名称	役割
(1)	株式会社日本能率協会総合研究所	・業務全体の企画・運営、進捗管理 ・関係人口の募集・広報、取組の推進 ・効果検証、成果・課題の分析・整理
(2)	NPO 法人ほほえみの郷トイトイ	・山口市阿東地福地域における関係人口創出・拡大に係る受入体制 ・プログラムの企画協力、運営
(3)	ロコネクト合同会社	・周防大島における関係人口創出・拡大に係る受入体制 ・プログラムの企画協力、運営

5　事業実施内容

5.1　実施スケジュール

・スケジュールは以下の通り推移した。

・クエストの告知、募集までは予定通り進んだが、新型コロナの影響で、クエスト受入地域との調整が停滞し、企画内容の縮小等に関する検討・調整に時間を要したことから、１か月ほどスケジュールがずれて進行した。

・また、当初予定していなかった、クエスト参加者との面談によるフォローアップの追加や、クエスト２回目の検討・実施が加わり、クエスト及びフォローアップの実施期間が延長されることとなった。

表　当初スケジュール

実施事項		8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1	クエストの周知・募集	周知・の検討募集					募集・受付															
2	クエスト説明＆面談会				説明＆面談会の準備			説明＆面談会の実施														
3	やまクエスト（①農体験・②小さな拠点体験・③持ち込み企画）				企画・現地調整・準備						実施											
4	うみクエスト（①田舎暮らし体験）				企画・現地調整・準備						実施											
5	参加者フォローアップ															フォローアップ						

表　実施スケジュール

実施事項		8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1	クエストの周知・募集	周知・の検討募集					募集・受付															
2	クエスト説明＆面談会				説明＆面談会の準備			説明＆面談会の実施														
3	やまクエスト（①農体験・②小さな拠点体験・③持ち込み企画）							企画・現地調整・準備						実施								
4	うみクエスト（①田舎暮らし体験）							企画・現地調整・準備						実施								
5	参加者フォローアップ																フォローアップ					

5.2　事業の広報・アプローチ

（1）プレスリリースの民間サービス活用

・各民間サービスの内容を検討した上で、①「PRtimes」（配信先の数の充実、配信先のカスタマイズが可能）、②「@Press」（内容に合わせて適切な配信先を選定、PRtimes でカバーされていないフリーライター等にも配信可能）の２つを利用しました。

・「PRtimes」と「@Press」は、相互に強みを補完できると考えられたことから選定しました。具体的な内容は下表の通りです。

サービス名	メリット	掲載メディア数	具体成果の例
PRtimes	・配信先の数の充実 ・配信先のカスタマイズが可能	40	・山口県の地元紙より問合せを受け、クエストの告知を記事掲載してくれることになった。
@Press	・内容に合わせて適切な配信先を選定 ・PRtimes でカバーされていないフリーライター等にも配信可能	57	・雑誌「ソトコト」のネット記事に掲載された。

JMAR
JMA Research Institute Inc

報道関係者各位
プレスリリース

2020 年 09 月 29 日
株式会社日本能率協会総合研究所

「山口・田舎暮らしクエスト」説明会を 10 月 22 日（木）、27 日（火）、11 月 8 日（日）に開催
～新たな暮らしを探求するクエスト参加者を募集～

株式会社日本能率協会総合研究所(本社：東京都港区、代表取締役社長：譲原正昭)は、内閣府「令和２年度関係人口創出・拡大のための中間支援モデル構築に関する調査・分析業務」の一環として、自身の今後の新たな暮らしを探求するイベント、「山口・田舎暮らしクエスト」のオンライン説明会を開催することをお知らせ致します。

■山口・田舎暮らしクエストとは
都市部で暮らす人たちに、山口市阿東地福地域（山）と周防大島町（海）で農家の暮らしや地域の拠点での仕事等を通じて、単なる観光や遊びではない、自身の今後の新たな生き方の探求につながるクエスト体験を提供するものです。

<募集コース>※個人・企業どちらの参加も OK です。
【山口県阿東地福地域（山）】
① **農家の仕事・農のある暮らし体験**：農家の仕事や暮らしを体験したり、地域住民との交流等を通じて、田舎で心豊かに暮らすことを実体験します
② **地域の拠点で働く体験**：地域の暮らしを守っている NPO 法人の仕事を体験します（スーパーのスタッフ、総菜づくり、移動販売等）
③ **企画持ち込み体験**：地域の課題解決や魅力アップにつながることを前提に、参加者自ら企画を持ち込んで、実際に実証実験してみるコースです。
【周防大島町（海）】
① **お試し暮らし体験**：町の制度や暮らしに関する話、島の美味しいご飯や温泉等、島暮らしのいいところ、不便なところを知り、島の人と交流します。

■こんな方にオススメ or こんな人材を求めています
○都会では味わえない田舎ならではの豊かな暮らしを体験してみたい人
○田舎と関わるきっかけが欲しい人
○田舎ならではの魅力に共感し、地域づくりに関わってみたい人

作成したプレスリリース資料（抜粋）

PRtimes のリリース画面

（2）募集・受付の民間サービス活用　　@Press のリリース画面

・比較的若い層の閲覧が期待できること、募集情報を無料で掲載可能なこと等から、「Peatix」を活用しました。簡易なアンケートにより情報収集が可能であることから、募集・受付に係る事務負担の軽減にもつながりました。

（3）既存ネットワークを活用した告知

・当社および受入地域の団体が有する既存ネットワーク（地域づくりや関係人口等に関係する自治体、NPO、一般社団法人、民間企業等）を通じて取組の周知を行い、それぞれのネットワークへ拡散いただきました。

・具体的な成果としては、各ネットワークの SNS によるフォロー、山口市や山口県の公式ホームページへの情報掲載等につながっています。また、数名ほどクエスト説明会へ実際に参加いただきました。

（4）PR 動画の作成

・(1)～(3)の広報を行うにあたり、山クエスト（阿東地福地域）の募集用に PR 動画を制作しました。制作にあたっては、阿東地福へ移住した方に制作を依頼しました。

5.3　活動内容①　オンライン説明会と個別面談

（1）オンライン説明会の実施

① プログラムの目的、内容

・ターゲットとなる 30～40 代の社会人参加の可能性を広げる観点から、平日の夜間、祝日の日中の２つの時間帯を設定して、全３回の説明会を実施しました。オンライン説明会の実施プログラムは下表の通りです。

項目	時間	内容
開会	0：00～0：05	・開会あいさつ（主催者） ・各地域の受入団体あいさつ
地域説明	0：05～0：35	・各地域の受入団体による、地域の現状、取組内容、クエストの内容等に関する説明
座談会	0：35～0：55	・参加者からの質疑応答 ・地域との意見交換
今後の予定	0：55～1：00	・今後の予定の案内

② 実施結果

・全３回で行われたオンライン説明会の結果は下表の通りです。

・新型コロナの影響で告知のタイミングが遅くなってしまったこと、コロナ禍での都心からの地方移動に対する懸念等から、当初想定よりも参加人数は少ない状況でしたが、ターゲットとなる 30～40 代を中心に、20～60 代と幅広い参加が得られました。

・説明会参加の動機は、「クエスト内容に興味があるから」「自然に触れてリフレッシュしたいから」「地域住民と交流したいから」「地域・社会課題を考えるきっかけにしたいから」「今後の人生（進路、セカンドライフ等）を考えるきっかけにしたいから」等、多様な内容でした。実際にクエスト参加を決めた参加者の動機として共通するのは、「今後の人生（進路、セカンドライフ等）を考えるきっかけにしたいから」でした。

回	日時	参加申込	参加	クエスト参加
第 1 回	10 月 22 日（木）19:00～20:00	6	5	1
第 2 回	10 月 27 日（金）19:00～20:00	6	5	0
第 3 回	11 月 8 日（日）14:00～15:00	6	4	1
全体	－	18	14	2

オンライン説明会の様子（10/22）

（2）面談の実施

① 実施結果

・2 名のクエスト参加希望者と個別面談を行い、参加動機やクエストに求める要素等についてヒアリングを行い、クエストの組み立てや実施時期について話し合いました。

・受入地域の団体も参加し、じっくり意見交換できる場を設定したことで、互いの不安の解消、クエスト実施目的の明確化につながりました。

参加者	日時	意見交換内容、クエストの方向性
30 代男性 （兵庫県）	11 月 8 日（日） 15:30～16:00	・海と山の両方への参加を希望 ・田舎暮らしに興味があるがどのようなことから始めれば

参加者	日時	意見交換内容、クエストの方向性
		よいか分からない状況で、具体的なアクションを起こしたい ・就農について関心あり ・移住者がどのような仕事に就かれているか、仕事と住むところはどうやって見つけたか等を知りたい
30 代女性 （東京都）	11 月 11 日（水） 15:00～15:30	・海と山の両方への参加を希望 ・全国各地の移住情報や地域おこし協力隊等の情報を収集しながら、プチ移住体験もあるが、移住はハードルが高いことを実感 ・移住者がどのような暮らしをしているか知りたい ・田舎暮らしのリアルな部分を知りたい

5.4　活動内容②　山クエスト（阿東地福地域）

①　プログラムの目的、内容

・山クエストでは、山口市阿東地福を拠点に活動する NPO 法人の活動体験、農業体験等を通じたリアルな暮らしの経験を目的に、2 泊 3 日のクエストとして企画・運営しました。

・最も寒さが厳しく、観光資源も乏しい地域において、阿東地福という中山間地域での暮らしの課題や現状への理解（高齢化の進行、NPO 法人による暮らしの支援等）、頑張っている移住者との交流等を目的として行いました。行ったプログラムの内容は以下の通りで、参加者は 1 名（30 代男性）でした。

※2 月中旬から、30 代女性の方も山クエストへの参加を予定していましたが、新型コロナ感染拡大による緊急事態宣言を受け、3 月以降で再調整することとなりました（事業期間外）。

日	曜日	時間	行程
12 月 13 日	日	17:00	阿東到着　宿泊先へ移動
		17:30	日程説明・オリエンテーション 地域住民や関係者との意見交換
		19:00	夕食（ゲストハウスオーナー（U ターン者）との交流
12 月 14 日	月	7:30	朝食
		9:00	農家での農業体験
		12:00	昼食
		13:00	先輩移住者（I ターン者）訪問、阿東地域の紹介
		16:00	NPO 法人ほほえみの郷トイトイ見学
		18:00	夕食
12 月 15 日	火	7:30	朝食
		9:00	NPO 法人の事業体験（移動販売）

		12:00	昼食（クエストの感想・質問・意見交換）
		13:00	終了、新山口駅へ移動
		14:00	新山口駅にて解散

② 実施状況

・クエストの様子を写真とともに以下の通り整理しました。

地域との意見交換
（受け入れ地域の団体、農家、阿東で調査を行っている大学等との意見交換）

農業体験
（トマト栽培の畑の収穫後の後片付けの手伝い）

先輩移住者の話
（Ｉターンのきっかけ、これまでの苦労、地元和菓子店の承継、地域の魅力等に関する意見交換）

NPO 法人の拠点を見学
（スーパー、交流スペース、惣菜工房、移動販売車等を見学、小さな拠点としての機能についての解説）

地元イルミネーション見学
（毎年クリスマスシーズンのランドマークとなっている地元イルミネーションの点灯試験を見学）

移動販売の体験
（極寒の中、地域の高齢者を対象とした移動販売を通して、NPO 法人の業務の一部を体感）

5.5　活動内容③　海クエスト（周防大島町）

① プログラムの目的、内容

・海クエストでは、周防大島町のリアルな暮らしを体験してもらうことを目的として、1 泊 2 日のクエストとして企画・運営しました。

・観光地を巡るのではなく、周防大島で起こっている課題や現状への理解（空き家の増加、景観の悪化等）、頑張って暮らしている移住者との交流等を目的として行いました。行ったプログラムの内容は以下の通りで、参加者は 2 名（30 代男性、30 代女性）でした。

日	曜日	時間	行程
12 月 12 日	土	13:00	JR 大畠駅集合・出発（車移動）
		13:45	オリエンテーション（町の施設にて）
		14:00	ライフデザイン講座（町の施設にて）
		15:00	移住者の話①（農家）
		16:00	移住者の話②（地元事業者）
		17:30	竜崎温泉ちどり入浴
		18:30	移住者との交流会
		21:00	ホテルチェックイン
		21:30	ふりかえり、意見交換
12 月 13 日	日	8:00	出発
		9:00	街並み散策（空き店舗、空き家の状況等）
		10:00	空き家見学（空き家バンク）
		11:00	宮本常一記念館（文化交流センター）
		12:00	昼食（道の駅 サザンセト とうわ）
		13:30	移住者の話③（地元事業者）
		15:00	大畠駅にて解散

② 実施状況

・クエストの様子を写真とともに以下の通り整理しました。

ライフデザイン講座の様子
（受け入れ地域の団体による周防大島の普段の暮らし、地域が抱える課題、移住者の状況等についての解説）

移住者の話①（農家）
（移住、就農したきっかけ、これまでの苦労、生計の立て方、島の魅力等に関する意見交換）

移住者の話②（地元事業者）
（移住、就農したきっかけ、地域に対する思い、島の暮らし等に関する意見交換）

移住者との交流会
（島に移住したご夫婦とともに交流会を実施）

周防大島名物のみかん鍋
（刻印のあるみかんは皮まで食べられる安全でおいしい証）

街並み散策
（空き店舗の状況、多く残る寺社等を巡る）

地元スーパー見学
（暮らしをイメージしながら、品揃え、価格帯等をチェック）

空き家バンクの物件見学
（家賃の相場や利用可能な空き家の状況をチェック）

移住者の話③（地元事業者）
（ジャム等を扱う店舗経営者としてのこれまでの移住プロセス等について意見交換）

5.6　活動内容④　フォローアップ

（1）ふりかえりアンケートの実施

・クエストに対する満足度や課題意識、今後の意向等を把握することを目的として、アンケートを実施しました。

① 結果の概要

・2 名のクエスト参加者の回答結果の概要は以下の通りです。

【30 代男性】※参加クエスト：山クエスト、海クエスト

項目	内容
クエスト参加のきっかけ、動機	・都会は「ヒトやモノ」が多すぎて人間らしい生活ができなくなっていると感じ、田舎に移住することで何かしら変わるのではないかと考えた。山口クエストは、観光目的なしで、田舎の良いところ、悪いところを隠さず見せるというツアーだったので、その点が魅力的だと思い参加しようと思った。
クエストのプログラム内容	【良かった点】 ・スケジュールがしっかり詰まっていて、車移動などもスムーズに進んだ点。 ・移住者の方とお話する機会があったこと。変にかしこまった感じではなく、移住者の方がいつも生活している時間の中でお喋りする感じが良かった。 ・阿東のゲストハウスのオーナーも一度都会へ就職した後、農家を継ぐために戻った方なので、話をしていて楽しかった。 ・また会って色々話しがしたいと思える人に会えたこと。 【改善点】 ・1 日目の宿泊先がホテルだった点。周防大島内の宿が取れなかった都合もあったと思うが、現地の宿泊先に泊まった方が、より地域の暮らしに近いものを味わえると思った。 ・夜、遅い時間帯でなければ、参加者同士での意見交換をする時間を作る（今回は、事務局で即席の機会をつくっていただき、参加者同士で互いの考えを知ることができた。）
参加前後の地域の印象の変化	・参加前は、田舎の自然や景色がきれいな印象をもっていた。 ・参加後は、良い意味で人と人との距離感が近くて緩い。物々交換（食べ物）が当たり前のようにあること。仕事などの紹介も人づてにあることがわかった。都会での人との関わり方よりも、リラックスして構えずに接することが大切だと思った。地域の行事といったコミュニティに自分から参加していくことも必要不可欠だと思った。
特に印象に残ったコト（場所、経験等）	・2，3 日目の宿泊先ゲストハウス郷が印象に残った。実家感があり、自分がその地域に住んでいるような体験ができた。オーナーの落合さんも気さく

項目	内容
	な方で移住のことだけでなく、世間話など気軽に話してまた泊まりたいと思った。「農家は儲からない。家庭菜園からにしておけば。」「どんなことがしたいか決まったら、それに繋がる人を紹介するよ。」など具体的なことも話して下さり相談しやすかった。
今後の関わり意向	・様々な仕事をして、まずは人手不足と言われる仕事をやっていきたい（例：周防大島のみかん農家。阿東の移動販売等）。 ・現地に住み、人と話してどんな仕事があるか、人手不足の仕事で自分ができることをやっていきたい。そこから課題を見つけていきたい。地域貢献というと、あいまいかつ大きなことをやらなければならない意味に捉われがちなので、現地に住み、話すことで小さなことからでもその地域のためになることはできると思う。
今後に向けた課題や問題意識	・仕事をするうえで、手伝い期間（アルバイト）で生活は継続できるのかが不安。（移住して始めの頃は、いくつかのバイトを掛け持ちすることになるので、それは人や仕事を知ることにつながる点では良いと思う。） ・何か企業を始めるにしてもイチから始めることになるので、ノウハウがわからずどうやればよいか全くわからない点。 ・ほぼ車必須となると、移住していきなり車を購入する点は支出が大きく不安。
満足度	・大変満足 【理由】 ・田舎体験ツアーは現地の人との関わりが醍醐味だった点。移住できればベストだが、出来なかったとしても気軽にまた会いに行ける人ができたこと。 ・現地の人がどういった生活（近所の人物々交換していること、地域行事は参加した良いこと、兼業している人が多いこと）をしている垣間見ることができた点が良かった。
運営面での意見	・個人的には文句なしで大満足。参加者が少なかった点も、深く意見交換ができて充実していた。

【30 代女性】※参加クエスト：海クエスト

項目	内容
クエスト参加のきっかけ、動機	・これまでお試し移住を 4 日間ほど体験しましたが、体験後自分の移住への準備不足を痛感し、改めて情報を収集する中で、山口のクエストを知りました。
クエストのプログラム内容	【良かった点】 ・地域で聞いた損得なしのストレートな言葉、熱意。本当に親身になって頂いたこと。人のこと、町のことを（氷山の一角ながら）体感することができた点。

項目	内容
	・少人数でのツアーのため、ツアー参加者とのコミュニケーションもより濃くとれた点。 ・主催者が参加者の視点で伴走してくれた点。 ・多様な視点(主催者、報道関係者、受け入れ先、地域住民、移住者、参加者等)で町をみることができた(同じものをみている状況下で各々がどのような受け止め方をしているのかを知ることができた)。 【改善点】 ・2 日間だけのクエストでは肌で感じたものを浸透させるにはやや短かった点(足掛かりとしても 3～5 日間くらいあったらもう少し深く落とし込めたかな) ・自炊する、というような実際の生活の一片を試す機会がなかった点。 ・先駆的に取り組んでいるようなまぶしい人だけでなく、今踏ん張り時の人(移住したが苦労している人とか)、表舞台にはでないけれど地域に根差した人とも話してみたかった点。 ・浜辺の清掃活動といった全員で何かひとつのことを協力して行うイベントがなかった点。 ・町を車で自走しスーパーに行くとこれだけかかる、等の不便さを体感してみたかった点。
参加前後の地域の印象の変化	・町自体へのイメージはそこまで劇的な変化はないですが、そこに生活する人たちが「この町の人はね、あったかいよ」といっていたのが印象に残っています。 ・葬儀の広告看板が観光地の道路沿いにあったり、パンフレットに掲載されているような美しい町の顔はあくまでも観光としての顔で、生活の顔としては違う印象を受けました。
特に印象に残ったコト（場所、経験等）	・1 日目の夜にホテルで参加者と主催者で深く意見交換できたこと。 ・帰りの広島駅で、人の行き交う駅構内でひとり周防大島で歩いた商店街や話をしてくれた人たちの顔を思い出し、でも明日にはまた仕事のことを考えなくてはならないことにどっと疲れを感じると同時に、またみんなに会いたいと思っていたこと。
今後の関わり意向	・正直わたしは「何もない人」ですが、「何もしない人」「何もしたくない人」ではないので小さなことから新たな自分の可能性をみつけられるよう、町や人とかかわっていきたいです。住む場所は一か所ですが、日によっては別の町にお手伝いにいったり、季節やイベントごとで様々な町や人とご縁を頂き、目に見えない、利害関係ではなく信頼関係で繋がれるようにしたいです。
今後に向けた課題や問題意識	・経済的な地盤を形成するまでの暮らし方。 ・実際の移住までの「ワンクッション」はどれくらい設けるべきか。 ・コロナもあり、都会(ましてや東京)の若者が長期滞在して迷惑にならない

項目	内容
	か。 ・バトンを渡してくれた人から、わたしが次の人へつなぐにはどう情報を発信すべきか。等
満足度	・大変満足 【理由】 ・コロナで疎遠になっている「人との交流」を久しぶりに感じられた 2 日間であったこと。 ・ご縁という財産を分けて頂けたこと。 ・生きてきた道筋は違っても、同じ方向を見ている人たちに出会えたこと。
運営面での意見	・第 1 回山口クエストの参加者になれてうれしい限りです。世の中が大変な時期ではありますが、無事にクエストを終了することができてよかったですし、新しい生き方へ踏み出す大きな一歩になったことは間違いありません。 ・今後ともこのクエストでの経験を活かして様々な取り組みを企画、運営することで輪が大きくなっていったらと思います。

② まとめ

・2 名に共通して、クエストへの満足度は非常に高いものでした。その理由として、以下のようなことが挙げられます。

〇事前の個別面談で得た参加者のニーズ等をプログラムの中で反映したこと

〇地域の綺麗なところや魅力的な場所を回るのではなく、暮らしに密着した場所（スーパー、病院、学校等）、地域の課題や問題点となっている場所（空き家、耕作放棄地等）をまわったこと

〇地域に移住して暮らす人たちと色々な意見交換ができたこと

〇参加者同士で密な意見交換ができたこと

〇参加者側の目線で意見交換や助言ができるメンター的な役割（主催者）がいたこと

〇地域で顔が見える人とのつながりが生まれたこと

・一方で、以下のようなことは今後の課題ではないかと考えられます。

△期間の短さ

△先駆的な方だけでなくより一般的な移住者や地域住民との交流の必要性

△より暮らしに密着した体験の充実（自分で移動、自炊して暮らす等）

(2) オンラインクエストの実施

・クエスト終了後、参加者のその後の動向把握、地方への関わりに関する不安や疑問点の把握と助言等、伴走型の対応を目的としたオンラインの意見交換会を開催しました。

・オンラインクエストの実施により、参加者のその後の様子を伺えるだけでなく、アクションを後押しできる機会にもなり、主体的なクエストの動き（30 代男性の 2/20～2/23 の周防大島での移住体験）にもつながりました。

回	実施日	参加者	意見交換内容
第１回	12 月 26 日	・参加者 2 名 ・主催者 2 名	・クエストを終えてみてのふりかえり ・今後のアクションに向けての気持ちや問題点の整理 ・地域への関わり方（移住体験を重ねる、地域の仕事に複数バイト的に関わり暮らす、地域の役に立つ等）に関するイメージの共有、意見交換　等
第２回	1 月 23 日	・参加者 2 名 ・主催者 2 名	・年末からこれまでの暮らしのふりかえり ・具体的なアクションに向けた方向性の意見交換（周防大島や阿東地福での移住体験の内容検討）
第３回	2 月 20 日	・参加者 2 名 ・主催者 2 名	・今後の地域への関わり方 ・３月以降の参加者独自クエストの内容

6　モデル事業としての成果検証

6.1　事業成果（目標達成状況）

・オンライン説明会やクエスト参加者は予定した目標値と大きく乖離してしましましたが、コロナ禍による影響も大きかったと感じています。

・ただ、最も重視した「仲間づくり」の点では、今後も継続して各地域へ関わる人材をつなぐことができ、一定の成果があったと思います。

事業の目標・達成状況

	目標 （定量目標の場合は目標数値も記載）	達成状況
1	クエスト説明＆面談会の参加者：100 名以上	14 名
2	クエスト参加者：20 名以上	3 名（延べ）
3	取組終了後も地域に関わり続けたい参加者：4 名以上	2 名 ・周防大島、阿東地福それぞれの地域において、段階的に二地域居住的な関り方を開始している
4	関係人口（仲間）の確約人数：2 名以上	2 名 ・既に、いずれかの地域で、移住後の暮らし方を模索している
5	取組終了後、地域づくりに参画したいと考える地元住民：10 名以上	10 名以上 ・各地域において、参加者と地域住民のつながりをつくることにつながったことも成果として大きい

6.2　事業成果（関係人口の地域とのかかわり方）

○顔が見える関係をつくる

・参加者が継続的に地域につながりを持てるということは、その地域に会いたいと思える人がいることが重要な要素の 1 つと考え、参加者のロールモデルとなり得る移住者との交流や仕事の手伝いを通じた関係づくり等により、地域の顔見知りができるようにしました。その結果、参加者はそれぞれ独自で各地域と連絡を取り、次のクエストに向けて動き出しています。

○地域のリアルを体験する

・観光地をまわらない、極寒の地域資源も乏しい真冬に訪れる、地域で暮らす移住者や住民の率直な話を聞くことができる、地域の仕事をしっかり体験する等、通常の移住体験ツアーではあまり組み込まれない要素を入れることで、「地域への関わり」を目標としている参加者にとっては非常に満足度が高い結果になったと考えます。

6.3　事業成果（その他）

○海と山の連携によるクエストの魅力向上

・海に囲まれた比較的温暖な島である周防大島と島根県に近い中山間地域である阿東地福では、立地環境や気候が大きく異なります。そのような大きな環境の違いを体感できた今回のプログラムは、参加者にとっても深く印象に残る出来事だったようです。

・また、大きく環境が異なる一方で、それぞれの地域に共通する魅力はそこに暮らす人たちや営みにあることを実体験として感じられたことも、参加者にとっての大きな大きな気づきにつながったと思います。

○受け入れ地域におけるアイデア実現に向けた機運

・阿東地福地域では、地域の魅力を掘り起こす体験型ツアーの事業化等をアイデアとして考えている人がいますが、本業があり具体的なアクションに移ることができない状況でした。しかし、今回のクエストで外部から地域づくりに関心が高い参加者が来たことにより、連携することで前に進められるかもしれないという機運が生まれました。

6.4　本年度の課題と対応

○コロナ禍におけるクエストの実施

・コロナ禍において、都心在住の参加者が地方へ移動することが困難な中で、クエストの規模や行程の縮小、参加者に対する事前１週間の検温チェックの徹底、ソーシャルディスタンスに配慮したクエストの進行等により、クエスト実施に対する地域の理解が得られたとともに、感染者も出ることなく無事に終えることができました。

○参加者のモヤモヤに寄り添う

・クエストを通じて、参加者に様々な情報が大量にインプットされ、多くの気づきや学びを得る一方、これまで想定していた地域への関わり方とのギャップが生じる、選択肢が増えすぎて選べなくなる等、参加者がモヤモヤする状況が生じました。そこで、クエスト中、宿泊施設にて夜に参加者と意見交換の場を設定して頭の中を整理する時間をつくる、クエスト終了後も定期的にオンラインの意見交換を行い今後の相談に乗る等、主催者がメンター的に参加者の気持ちに寄り添うことで、参加者のこれからのアクションを後押しすることにつながりました。

6.5　今後の事業のあり方

○地域とのつながりがない関係人口創出の重要性

・Ｕターンやかつて何らかの関りがあった地域に関係人口として関わる場合と比較して、全く縁も所縁もない地域へ関わる場合のハードルの高さは何倍にもなると考えます（今回の参加者は２名とも山口県との関りが全くない状況でした）。このようなケースの参加者は母数としても少なくないことが想定されることから、これらにも対応できるプログラムづくりや体制構築が重要になってくると考えます。

○地域づくり等に関する知見等がない人材への対応

・新型コロナの影響もあり、地方への移住や関係人口としての関わりに対する関心が高まっている一方で、田舎暮らしに関する経験や知見がほとんどない中で地域に入ると、理想と現実のギャップの大きさに挫折するケースも少なくないと思います。今回のクエストで行ったオンラインによる説明会や面談、地域のリアルな暮らしや人に触れてもらうプログラム等は、そのような状況を抑制する手法として一定の成果があったと考えます。今後、コロナが落ち着けば、長期プログラムの構築、対象ターゲットの拡大等により、クエストの質を高めていくことができると思います。

7　自立化・自走化の検討

7.1　実施体制

・事業全体の企画、都市と地方のつなぎや参加者のメンター役に関わる当社、それぞれの地域において自律的に地域づくりに関わる活動を展開する団体が受け皿としてあり、事業終了後も関係性を継続して、自立・自走に向けて取り組むことを予定しています。

7.2　運営費用

・今後２～３年は、当社の投資（費用負担）という形で、実績を積み上げていくことを想定しています。関係人口や地域づくり、田舎の暮らし等に関する情報や知見は乏しいが地方への関りを志向している層が少なからず存在すると考えられることから、そのような層に着目して実績を積み上げていくことが考えられます。

・また、今回は実現できませんでしたが、将来的には、地域の暮らしや人と関わることを通じて地域課題の改善につなげていくような実践型のプログラム等、個人や企業を対象としたプログラムを磨き上げ、独自のインセンティブ要素（兼業・副業、企業の人材育成・新規事業開発等）を組み込みながら、一定の収益を確保していくことも考えられます。

8　他地域への横展開の可能性の検討

8.1　事業スキーム

・都心と地域のそれぞれの団体が連携して取り組む今回のスキームは、互いの弱みを補完して進めることができることから、有効な考え方の一つだと考えます。

・留意点として、体制間で事業の目的や将来的なビジョンを事前に協議して共有しておくことが挙げられます。

8.2　プログラム

・コロナ禍での対応となりましたが、効果的なオンラインとリアルの組み合わせの試行ができたと思います。地域と都心の参加者の双方に負担がかからない形で一定の質を保ちながら、クエスト説明会や個別面談を実施し、ある程度互いの意見交換を経て、現地でクエストに臨み、終了後もオンラインでフォローアップするという流れ（①情報提供・相互理解（オンライン）→②田舎暮らしクエスト（リアル）→③フォローアップ（オンライン））は、今後のプログラムでも活用できる方法だと考えます。

・一般的な体験ツアーの場合、観光地を回る、地域の名物を食べる等の要素が組み込まれていることもありますが、関係人口等の関りを考える場合、より暮らしに根差した情報を提供することが重要と考えます。今回のクエストでは、敢えて「おもてなし」が前面に出ないようにしました。普段のありのままの地域を体験してもらい、「もしこの地域に暮らしたらどうなる？」という意識を常に持っていただくことで、に留意することが重要だと考えます。

・また、受け入れ側の視点として、普段の暮らしを体験してもらうことから、特別な準備（クエストのために地域の人たちに食事を作ってもらう等の作業をお願いすること）を行わないことにも留意しました。受け入れ側の継続の視点として、負担をいかに減らすかという点も重要だと考えます。